

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和 8 年 2 月 15 日～令和 8 年 2 月 23 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：5 年

学籍番号：200973310

氏 名：大河内霞帆

1. 参加目的

5 年生での薬局および病院での実務実習を通して、日本における薬剤師の役割や医療制度について学んだ。その中で、薬剤師が専門性を活かして医療に主体的に関わることの重要性を感じるようになり、アメリカにおける薬剤師の役割や医療制度、薬学教育制度について日本との違いを学びたいと考えた。本研修で、アメリカの臨床現場での薬剤師の関わり方や教育背景を実際に学び、日本の医療と比較することで、日本の医療現場に取り入れられる点を見つけ、将来薬剤師として働く際に活かしたいと考え、参加を希望した。

2. 研修内容

【研修テーマ】アメリカにおける薬剤師の役割や医療制度、薬学教育制度について

【研修日程】

月日	研修内容
2 月 16 日	オリエンテーション、アメリカの薬学教育、 感染症及び HIV/AIDS 領域における薬剤師業務、 インド出身薬剤師のキャリア、アメリカの医療制度
2 月 17 日	地域薬局について、サウジアラビアの薬学教育と研修、 Banner-University Medical Center 見学、市中肺炎症例レビュー
2 月 18 日	Poison Center 見学、救急医療における薬剤師の役割、 市中肺炎症例レビュー、レジデントによる症例発表
2 月 19 日	CVS Pharmacy 見学、薬剤師主導の患者志向型研究、 市中肺炎症例ディスカッション
2 月 20 日	アメリカにおける薬剤経済学、高齢者医療の栄養学の視点、 Pharmacy Museum 見学、プレゼンテーション発表、 エジプト・カタールの薬学教育と研修

【研修内容の詳細】

講義では、アメリカの薬学教育制度や医療制度、市中肺炎を題材とした症例検討、さらに他国における薬学教育・研修制度などについて幅広く学んだ。アメリカでは、薬剤師になるために、まず pre-pharmacy として 2 年間基礎科目を履修した後、4 年間の PharmD program に進学し、専門科目および臨床科目を学ぶことで薬剤師資格を取得できることを学んだ。また、PharmD program では 1 年次から症例レビューを行い、SOAP を用いて問題点や治療方針を明確にする教育が行われており、知識の習得にとどまらず、臨床現場で活用できる思考力や判断力を重視した教育体制であることが印象に残った。

市中肺炎の症例レビューでは、4年生時に履修した薬物治療マネジメントの授業内容を活かし、患者の主訴や検査値、重症度を評価した上で、最適な抗菌薬選択や治療方針を検討した。実際の臨床を想定した症例検討を通して、患者一人ひとりの状態に応じた治療計画を立案する重要性を改めて実感した。

病院見学では、薬剤師に加えて pharmacy technician が調剤業務を担っており、薬剤師がより専門性の高い業務に集中できる体制が整えられていることを学んだ。薬剤師は各病棟に常在し、薬剤管理だけでなく、処方内容の確認や医師・看護師への処方提案などを行い、医療チームの一員として積極的に治療に関与している点が印象的であった。

薬局見学では、OTC 医薬品の種類の多さに特に驚いた。アメリカでは多様な人種や生活背景を持つ人々が暮らしていることに加え、セルフメディケーションの意識が高いことから、同じ成分の薬であっても、味や剤形が工夫された製品が数多く販売されていた。特に、アリゾナ州はメキシコと近接していることから、OTC 医薬品にはアメリカ製とメキシコ製の製品が混在しており、地域性が薬局の品揃えにも反映されている点が興味深かった。

3. 感想

アリゾナ大学での海外臨床薬学研修を通して、アメリカにおける薬剤師の役割や医療制度、薬学教育制度について、日本との違いを実体験として学ぶことができた。アメリカでは、日本のように身近なクリニックを気軽に受診できる医療体制とは異なり、病院を受診する際には事前にアポイントメントが必要となる場合が多いことを知った。このような違いから、日本の医療体制の利便性や課題について改めて考える機会となった。

また、Poison Center の見学を通して、アメリカでは Poison Center が社会に広く浸透しており、医薬品や動物毒だけでなく、洗剤などの日用品に関する毒性についても研究および情報提供が行われていることを学んだ。さらに、研究活動にとどまらず、一般市民や医療従事者からの相談に対応し、特に小児の誤飲事故などに対して迅速に助言を行っている点が印象的であり、予防医療の観点からも重要な役割を担っていると感じた。

アメリカと日本の医療には制度や仕組みの面で多くの違いがあるものの、どちらも患者一人ひとりにとって最善の医療を提供することを目指している点は共通していると感じた。

本研修を通して、薬剤師の専門性の高さや、医師・看護師など他職種と連携しながら医療に関わる姿を学び、薬剤師として専門性を発揮するためには、継続的な学習と円滑なコミュニケーションが不可欠であることを改めて実感した。

今回の経験は、自身の将来の薬剤師像を考える上で大きな刺激となり、今後も主体的に学び続けていきたいと考えるきっかけとなった。

最後に、本研修の実施にあたりご指導いただいた先生方、ならびに現地の方々をはじめとするすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。